内村鑑三 闘いの軌跡

関口安義 [著]

A5 判•上製函入•603 頁•本体 7,250 円(税込定価 7,975 円) ISBN 978-4-400-21339-0 C1016

克明な実証による新たな内村像の追求!

芥川龍之介研究で定評ある著者の真骨頂である、克明な文献調査と足を使った事実調査が光る 労作。内村の近代日本への影響は、多くの人々によって語られ、書物にもなっているが、本書 は新しい目でその生涯をたどり、新たな光を当てる。

著者は本書の校正中に急逝したため遺作となった。都留文科大学名誉教授、日本キリスト教会浦和教会長老を務めた。

「わたしの中で内村鑑三が再浮上して来たのは、鑑三の弟子、矢内原忠雄の評伝を書くために資料を収集し、鑑三との関わりを追求する中でのことであった。『評伝 矢内原忠雄』(新教出版社、二〇一九·四)を書きつつ、わたしは内村鑑三という、近代日本の知識人の精神史・思想史を語る場合、落とすことのできない人物を再確認・再発見している。(中略)矢内原忠雄の生涯を入念に書きとどめる作業を通し、わたしは内村鑑三をどうしても調べ抜き、その歩みを、――生い立ちから死までを、評伝スタイルで、描き留めたくなった。」(あとがきより)



第一章 世老の家系と生いこと 第二章 札幌バンド 第二章 不敬事件 第五章 不敬事件 第五章 不敬事件 第五章 不敬事件 第五章 不敬事件 第五章 然本・京都時代 第九章 態本・京都時代 第九章 鉱毒事件、反戦論と聖書 第十章 紙上の教会と再臨待望 第十二章 死の陰の谷

目次